

1 . 教科・科目名	運営管理			
2 . 教員名	樋口 清			
3 . 時間数・単位	2年次 30時間 (2年間30時間 1単位)			
4 . 科目の目標	① 美容業界を志す上で、日常の仕事に必要な心構えから、自分が店を開いて運営していくまでの、「接客」「経営戦略」「経営管理」「労務管理」などを学ぶ。 ② 仕事をするということがどういうことなのか、基本的な考え方を身につける。 ② 実際に経営する立場になったらということを意識し、就職や勤務の段階で直接役立つと考えられるものをマスターする。			
5 . 使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター		
	問題集	日本能率協会マネジメントセンター ①美容師国家試験過去問題集 ②美容師国家試験合格対策&模擬問題集		
	その他	プリント		
6 . 評価の方法	期末テストの評価	年2回 合計200点		
	平常学習の評価	小テスト ・ 授業態度		
7 . 評価の観点	観点	趣旨		
	知識・理解	美容業を志す上で知っておかなければならないこと、働く上で必ず知っておかなければならないこと、経営上の責任など、幅広い知識を身につけている。		
	関心・意欲・態度	身近な接客から経営に至るまで、様々な事例に関心を持ち、自ら考え、意欲的に学ぶ姿勢を身につけている。		
8 . 評価・評定の基準	達成度	評価	評定	
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5	
	高い程度に達成している者	80～89点	4	
	おおむね達成している者	60～79点	3	
	達成が不十分な者	31～59点	2	
	達成が著しく不十分な者	0点～30点	1	
9 . 学習の方法	① 授業を一番大切にする。教科書、プリントを中心とした学習で基本的理解を深めること。			
	② 身近な接客や経営管理について、様々な例に興味関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢を身につけること。			
10 . 指導内容				
科目名	単元	指導内容		
運営管理	接客	経営者側の声を参考に、美容師として求められる人材像を明らかにし、お客様のために尽くすという視点を学ばせる。		
	経営戦略・マーケティング	良い店とは何か、どうしたら実現でき、良い店であり続けられるのか、店づくりに求められる専門性を理解させる。		
	経営管理	経営者側がどのようなことを考え、お客様、スタッフ、社会に対してどのような責任を負い、どのように果たしているか、経営全般について理解させる。		
	労務管理	就職する上で重要な、働く者としての権利や義務について理解し、自らのキャリアプランを考えることを学ばせる。		
	健康管理	美容という仕事の特性から特に考えなくてはならない健康上の問題について理解させる。		

衛生管理

(専門 課程)

令和 2 年 3 月 31 日作成

作成者

辻 純子

1. 教科・科目名	衛生管理		
2. 教員名	辻 純子		
3. 時間数・単位	1年次 30時間 2年次 60時間 (2年間 90時間 3単位)		
4. 科目の目標	① 公衆衛生の意義と本質とを明らかにすることによって、美容師が公衆衛生の維持と増進とについて重大な責務を担わなければならない理由は何かを十分に理解させること。特に、環境衛生の意義と目的について、美容師の業務と関連付けながら具体的に理解させること。 ② 美容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視して、美容における衛生措置の重要性について理解させること。特に美容器具などの消毒法は、美容業務の衛生性を担保する上で最も重要な技術であるので、その意義と原理について十分に理解させるとともに、その適正な実施方法を身につけさせることが肝要である。		
5. 使用教材	教科書 (社)日本理容美容教育センター 問題集 日本能率協会マネジメントセンター ①美容師国家試験過去問題集 ②美容師国家試験合格対策&模擬問題集 その他 プリント		
6. 評価の方法	期末テストの評価 年2回 合計200点 平常学習の評価 小テスト ・ 授業態度		
7. 評価の観点	観点	趣旨	
	知識・理解	学期ごとの期末テスト	
	国家試験対策	美容師国家試験の筆記試験対策として問題の解き方を理解している。	
	関心・意欲・態度	様々な具体例に関心を持ち、自ら考え、意欲的に学ぶ姿勢を身につけている。	
8. 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	31～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9. 学習の方法	教科書とプリント等を用いた講義形式で理解度を確かめながら進める。		
10. 指導内容			
科目名	単元	指導内容	
衛生管理	公衆衛生の概要	・公衆衛生の意義、美容業との結びつき、公衆衛生の発展向上のためになすべきこと	
		・公衆衛生の発展の歴史、及び公衆衛生の思想の発展について	
		・公衆衛生における対人的な予防医学と対物的な環境衛生の大別について	
		・保健所の機能、組織、業務など美容業との密接な関係について	
	環境衛生	・環境衛生の意義と美容所における注意点について	
		・美容所における採光、照明、換気、床などの構造設備及び、衣服の衛生について	
		・美容所における廃棄物処理、環境保全対策について	
	感染症	・美容の業務を行う上での注意点について	
		・衛生措置、消毒の意義について	
	衛生管理技術	・美容所における衛生管理、消毒の意義と目的について	
		・消毒方法の種類、原理、特徴について	
		・美容器具などの対象物の材質、構造などに応じた適切な消毒方法の選択と適正な実施方法	
		方法	

1 . 教科・科目名	関係法規・制度		
2 . 教員名	樋口 清		
3 . 時間数・単位	2年次 30時間 (2年間 30時間 1単位)		
4 . 科目の目標	① 専門職としての美容師になろうとする者に対して、美容の業に対する美容師法による規制と行政による指導監督制度およびその他の美容の業の関連法規を教育すること。 ② 社会における専門職としての美容師意識を高め、職業倫理を身につけること。		
5 . 使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター	
	問題集	日本能率協会マネジメントセンター ①美容師国家試験過去問題集 ②美容師国家試験合格対策&模擬問題集	
	その他	プリント	
6 . 評価の方法	期末テストの評価	年2回 合計200点	
	平常学習の評価	小テスト ・ 授業態度	
7 . 評価の観点	観点	趣旨	
	知識・理解	美容師法を中心に様々な法律についての基本的な用語やしくみを理解している。	
	国家試験対策	美容師国家試験の筆記試験対策として問題の解き方を理解している。	
	関心・意欲・態度	様々な具体例に関心を持ち、自ら考え、意欲的に学ぶ姿勢を身につけている。	
8 . 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	31～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0点～30点	1
9 . 学習の方法	① 授業を一番大切にする。教科書、プリントを中心とした学習で基本的理解を深めること。		
	② 様々な具体例に興味関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢を身につけること。		
	③ 練習問題をたくさんこなし、美容師国家試験に向け、実践的な力をつけること。		
10 . 指導内容			
科目名	単元	指導内容	
関係法規・制度	法制度の概要	社会を公正に機能させるために強制的な社会規範として法制度が必要とされていること、また、法体系の実際を理解させる。 公衆衛生の向上を目的とする衛生法規の概要を理解させ、美容師法が生活衛生法規として分類されることを理解させる。	
	衛生行政の概要	人の健康を保持・推進する衛生行政が非常に重要であると同時に、理容美容に関する行政が現在どのように運用されているかを理解させる。 地域における理容美容の業を指導監督する保健所の行政について理解させる。	
	美容師法	美容師として美容サービスを提供する者は、美容師法をよく理解し、守り、衛生的かつ安全に美容を行う責任があることを理解させる。	
	関連法規	美容師法以外の美容師及び美容の業に関わる法律についても理解を深めさせ、将来の美容師の職業に生かせるように指導する。	

1 . 教科・科目名	香粧品化学		
2 . 教員名	森 俊範		
3 . 時間数・単位	1年次 30時間 2年次 30時間 【2年間 60時間 2単位】		
4 . 科目の目標	香粧品化学	美容の知識や技術の習得に必須の条件であることを理解させる。	
		物理や化学での学習内容を元に、美容分野には欠かせない香粧品化学の知識を身につけさせる。	
	総合	美容師国家試験に向けて実践的な力を身につけさせる。	
5 . 使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター	
	問題集	日本能率協会マネジメントセンター ①美容師国家試験過去問題集 ②美容師国家試験合格対策&模擬問題集	
	その他	美容師国家試験過去問題	
6 . 評価の方法	期末テストの評価	年2回 合計200点	
	実験の評価	実験態度 ・ 実験レポート	
	平常学習の評価	小テスト(年10回) ・ ノート提出(年2回) ・ プリント提出(年2回) ・ 授業態度	
7 . 評価の観点	観点	趣旨	
	知識・理解	香粧品化学についての基本的な用語やしぐみを理解している。	
	国家試験対策	美容師国家試験の筆記試験対策として問題の解き方を理解している。	
	関心・意欲・態度	様々な事柄に関心を持ち、自ら考え、意欲的に学ぶ姿勢を身につけている。	
8 . 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	31～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0点～30点	1
9 . 学習の方法	① 授業を一番大切にする。教科書、プリントを中心とした学習で基本的理解を深めること。		
	② 様々な現象や事柄に興味関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢を身につけること。		
	③ 練習問題をたくさんこなし、美容師国家試験に向け、実践的な力をつけること。		
10 . 指導内容			
科目名	単元	指導内容	
香粧品化学	香粧品概論	香粧品のもつ必要条件としての品質特性と機能、その安全性や安定性を学習させる。	
	香粧品用原料	美容技術を行うにあたり、どのような香粧品をどのように使用するのが適切かを考え、人体にどのように作用するのかを理解させる。	
	基礎香粧品	基礎香粧品全般について、使用目的や用法、効果を理解して選ぶことやトラブルなどについて理解させる。	
	メイクアップ用香粧品	フェイスマイクアップに使用される香粧品について、使用の目的や使用部位と材料についての知識を習得させる。	
	頭皮・毛髪用香粧品	スタイリング、パーマネントウェーブ用剤技術、カラーリング、頭皮のケアに使用される香粧品について理解させる。	
	芳香製品と特殊香粧品	芳香製品やサンケア製品、ニキビ用香粧品などについての作用、配合成分の効能、皮膚への影響などを理解させる。	
	香粧品の取扱い	第三者に香粧品を使用する美容師は香粧品の安全性や取扱い、リスクファクターについて十分に理解する必要があることを把握させる。	

1	教科・科目名	美容理論	本科目は美容実習とあいまって、美容師として必要な技術を身につけさせるための基礎となる科目						
2	時間数	1年次	90h以上	2単位	2年次	60h以上	2単位	2年間で150h	5単位
3	科目の目標	美容技術理論	①美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣を養い、工夫と創造の能力とを身につけさせる ②美容器具の正しい取り扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる ③優れた美容技術は経験によってだけ得られる者ではなく科学的・合理的な方法によって把握されなければならない事を強調する						
4	使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター ①美容技術理論Ⅰ ②美容技術理論Ⅱ						
		問題集	①美容師国家試験の過去問題集 ②ワークブック						
		その他	美容機器・器具・用具						
5	評価の方法	期末テストの評価	年2回 合計200点						
		授業中での評価	ノート提出(適時)・プリント提出・授業態度						
6	評価の観点	観 点	趣 旨						
		知識・理解	美容技術の必要な用語・名称・目的・使用上の注意等を学び、基礎的技術論を実際に即して学ばせる						
		関心・意欲・態度	実習中に積極的に取り入れ反映されているか						
		国家試験対策	美容師国家試験の筆記試験対策として問題の解き方を理解している						
7	評価・評定の基準	達成度	評価		評定				
		特に高い程度に達成している者	90～100点		5				
		高い程度に達成している者	80～89点		4				
		おおむね達成している者	60～79点		3				
		達成が不十分な者	31～59点		2				
		達成が著しく不十分な者	0～30点		1				
8	学習の方法	教科書中心の授業を一番重要とし基本的理解を深める							
		実習と関連性をもたせる事により理解と学ぶ意欲を向上させる							
		ワークブック・問題集など補助教材を用いて美容師国家試験に向けて実践的な力をつける							
9	指導内容	単 元	指導内容						
		器具の扱い	(1)美容機器・器具の種類、使用目的、形態と機能、選定法、基本的操作、使用上の注意などを学ばせ理解させる。 (2)美容機器、器具の手入れ法や消毒法を具体的に理解させ、正確な実施方法と注意事項を身につけさせる。 (3)美容に用いられるその他の電気器具類、備品類、容器類の種類、使用目的、形態と機能、選定法、基本的操作、使用上の注意などを学ばせ理解させる。						
		基礎技術	(1)美容技術の意義を学ばせ、技術を行う場合の心得を知らせる。 (2)美容技術に必要な人体各部の名称を知らせる。 (3)美容技術を行う場合の技術者の位置と姿勢、身体の機能その他美容技術を行う場合に考慮すべき基礎知識を知らせる。						
		頭部技術	(1)基本的な頭部技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ばせる。 ・スカルプトリートメント 物理的・化学的な作用を頭部に与えて頭部の皮膚、毛髪健康状態を保ち発育を促す技術 ・ヘアトリートメント 傷んだ毛髪を人工的に補強しそれ以上傷まないように保護する事を目的とする技術 ・シャンプーリンス技術 すべての美容技術の基礎であり血行促進を初めとする生理的な働きを助け毛髪の健康な発育を促す技術 ・カットティング技術 毛髪の長さ調整と疎密さを整えることを目的とし、カットティングの理論を理解し技術の基本を確実に身につける ・パーマネット技術 毛髪に対して道具や薬剤を用いて毛髪の構造や形状をウェーブ状に変化させヘアスタイルをつくる為の手段の一つ ・ウェービング技術 ウェーブを作り出す技術、ヘアスタイルをつくるための手段の一つ ・セッティング技術 基礎的なオリジナルセットと仕上げのリセットと二つの段階を経てヘアスタイルを作る技術 (2)この際使用する器具は毎回必ず消毒することを身につけさせる						
		特殊技術	(1)カラーリング・美顔術・化粧・マニキュア・ペディキュア等の美容の特殊技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ばせる。 ・カラーリング ファッションの領域を超え生活習慣の一部として定着した技術 ・エステ 人の容姿を美しく整える事を目的とした毛髪美粧以外の全身に係わる美容法 ・メイク どのようなニーズにも適応するための多面的な知識を持ち、単に顔の表面に色をのせるのではなく目的にあった顔づくりをする為の手段 ・マニキュア(ペディキュア) 手足の爪の手入れをいい、広い意味では手指(足)の爪を衛生的に美しくする技術						
		和装技術	(1)日本髪基礎知識、技術の実際について学ばせる (2)かつらの種類、あわせ方、かぶせ方について学ばせる (3)和装に関する一般知識、着付け技術について学ばせる						

器具の扱い	全ての美容技術に必要な器具類の名称・使用目的・形態の機能・基本操作法・使用上の注意を学ばせる
基礎技術	美容技術の施術に必要な心得・人体名称・技術者の作業姿勢・その他技術を行うに考慮すべき基礎知識
頭部技術	基本的な頭部技術の目的・種類・特徴・技術上の注意などについて学ばせる (スカルプトリートメント・シャンプーリンス・カットティング・パーマネント・セッティング・マーセルウェービング)
特殊技術	美容特殊技術の目的・種類・特徴・技術上の注意点などについて学ばせる (カラーリング・美顔術・化粧・マニキュア・ペディキュア)
和装技術	日本髪的基础知識・かつら・和装に関する基礎知識・着付け技術について学ばせる

1	教科・科目名	美容実習	本科目は美容理論とあいまって、美容師として必要な技術を身につけさせるための基礎となる科目						
2	時間数	1年次	420h以上	単位	2年次	480h以上	単位	2年間で900h以上	30単位
3	科目の目標	美容実習	①美容業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得する為、基本的操作を確実に身につけさせると共にこれらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得させる ②美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身につけさせる。 ③個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身につけさせる。						
4	使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター		①美容実習Ⅰ ②美容実習Ⅱ				
		テキスト	(財)理容師美容師試験研修センター		改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説				
		その他	美容機器・器具・用具						
5	評価の方法	期末テストの評価	年2回 /合計200点						
		授業中での評価	①授業態度 ②生徒ごとの実習記録とその評価						
6	評価の観点	観 点	趣 旨						
		知識・理解	美容技術理論の学習状況に配慮しつつ、理論と実習との連携を図って、美容師としての専門技術を効果的に習得させ基本的な技術を確実に身につけさせる。						
		関心・意欲・態度	実習の効果を生徒間で評価させ技術向上のための刺激を与え学習効果と学習意欲を高めるようにする。						
		国家試験対策	美容師国家試験の実技試験対策として各課題の構成・ポイントを理解し正確な作業手順と技術を理解している						
7	評価・評定の基準	達成度	評価		評定				
		特に高い程度に達成している者	90～100点		5				
		高い程度に達成している者	80～89点		4				
		おおむね達成している者	60～79点		3				
		達成が不十分な者	31～59点		2				
		達成が著しく不十分な者	0～30点		1				
8	学習の方法	(1)教科書中心の授業を一番重要とし基本的理解を深める (2)理論と関連性をもたせる事により技術に対する理解を深めさせ学ぶ意欲を向上させる (3)改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説など補助教材(テキスト)を用いて美容師国家試験に向けて実践的な力をつける (4)個別の実習記録簿を作成し管理することで生徒個々の技術進捗を把握しやすくし技術の向上を促す							
9	指導内容	単 元	指導内容						
		器具の扱い実習	(1)美容器具の操作法、消毒法、手入れ方法を確実に身につけさせる (2)用途に適した美容器具の選択方法について理解させ、実践する能力を身につけさせる						
		基礎技術実習	(1)美容技術を行う場合の位置、姿勢など美容技術を行う場合に必要の基本動作を身につけさせる (2)施設の清掃・消毒など美容所の衛生管理のために必要な措置を確実に身につけさせる (3)特に器具の消毒についてはその重要性を十分に認識させるとともに、適正な方法で実施することを習慣づけさせる事が必要である						
		頭部技術実習	(1)基本的な頭部技術を身につけさせる ・スカルプトリートメント 物理的・化学的な作用を頭部に与えて頭部の皮膚、毛髪健康状態を保ち発育を促す技術 ・ヘアトリートメント 傷んだ毛髪を人工的に補強しそれ以上傷まないように保護する事を目的とする技術 ・シャンプーリンス技術 すべての美容技術の基礎であり血行促進を初めとする生理的な働きを助け毛髪の健康な発育を促す技術 ・カッティング技術 毛髪の長さ調整と疎密さを整えることを目的とし、カッティングの理論を理解し技術の基本を確実に身につける ・パーマメント技術 毛髪に対して道具や薬剤を用いて毛髪の構造や形状をウェーブ状に変化させヘアスタイルをつくる為の手段の一つ ・ウェーピング技術 ウェーブを作り出す技術、ヘアスタイルをつくるための手段の一つ ・セッティング技術 基礎的なオリジナルセットと仕上げのリセットと二つの段階を経てヘアスタイルを作る技術 (2)この際使用する器具は毎回必ず消毒することを身につけさせる						
		特殊技術実習	(1)カラーリング・美顔術・化粧・マニキュア・ペディキュア・等の美容の特殊技術を身につけさせる ・カラーリング ファッションの領域を超え生活習慣の一部として定着した技術 ・エステ 人の容姿を美しく整える事を目的とした毛髪美粧以外の全身に係わる美容法 ・メイク どのようなニーズにも適応するための多面的な知識を持ち、単に顔の表面に色をのせるのではなく目的にあった顔づくりをする為の手段 ・マニキュア(ペディキュア) 手足の爪の手入れをいい、広い意味では手指(足)の爪を衛生的に美しくする技術						
		和装技術実習	(1)日本髪のかぶり技術、かつらのあわせ方、かぶせ方、着付け技術を身につけさせる。						
		総合実習	(1)頭部、特殊技術を適当に組み合わせることで調和のとれた美容技術を完成させるため、総合的な技術を身につけさせる。						

器具の扱い	全ての美容技術に必要な器具類の名称・使用目的・形態の機能・基本操作法・使用上の注意を学ばせる
基礎技術	美容技術の施術に必要な心得・人体名称・技術者の作業姿勢・その他技術を行うに考慮すべき基礎知識
頭部技術	基本的な頭部技術の目的・種類・特徴・技術上の注意などについて学ばせる (スカルプトリートメント・シャンプー・カット・パーマ・カラー・セット・ブロー)
特殊技術	美容特殊技術の目的・種類・特徴・技術上の注意点などについて学ばせる (カラーリング・美顔術・化粧・マニキュア・ペディキュア)
和装技術	日本髪・和装の基礎知識・かつら・和装に関する基礎知識・着付け技術について学ばせる

1 . 教科・科目名	文化論			
2 . 教員名	木下 ひかる			
3 . 時間数・単位	1年次 15時間、 2年次 15時間 (2年間 30時間 1単位)			
4 . 科目の目標	①美容師としての使命の達成のために必要な美容感覚を身に付け、これを洗礼し、芸術的な表現力と鑑賞力を養う。 ②美容の業を全うするために、確かな技術を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを自覚させる。			
5 . 使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター ①文化論 ②ワークブック		
	問題集	日本能率協会マネジメントセンター ①美容師国家試験合格対策&模擬問題集		
	その他	プリント		
6 . 評価の方法	期末テストの評価	年2回 合計200点		
	平常学習の評価	ノート提出(年2回) ・ 授業態度		
7 . 評価の観点	観点	趣旨		
	知識・理解	美容文化の歴史、沿革について、日本や海外における美容ファッションの変革について理解している。		
		服飾の歴史のあらまし、衣服の種類、衣装に関するエチケットなどについて理解している。		
	国家試験対策	美容師国家試験の筆記試験対策として問題の解き方を理解している。		
	関心・意欲・態度	様々な具体例に関心を持ち、自ら考え、意欲的に学ぶ姿勢を身につけている。		
8 . 評価・評定の基準	達成度	評価	評定	
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5	
	高い程度に達成している者	80～89点	4	
	おおむね達成している者	60～79点	3	
	達成が不十分な者	31～59点	2	
	達成が著しく不十分な者	0点～30点	1	
9 . 学習の方法	① 教科書、プリントを中心とした学習で基本的理解を深めること。			
	② 教科内容に即した課題を与えて、生徒同士討論させたり、レポート作成等で、自主的な判断力の向上を図る。			
	③ 練習問題にて、美容師国家試験に向け、実践的な力をつけること。			
10 . 指導内容				
単元	指導内容			
総論	文化論を学ぶにあたり「理容」とは「美容」とは何かを理解させ、価値観や美意識の多様化について説明する。			
日本の理容業、美容業の歴史	結髪について学び現在までどのようなヘアスタイルの歴史があったかを学ぶ。			
ファッション文化史日本編	縄文時代からの日本のファッションの変化を画像を見ながら理解させる。			
ファッション文化史西洋編	古代エジプトから現代(2010年)まで年代ごとのヘアスタイルや服装の歴史等、移り変わりを学ぶ。			
礼装の種類	和装の礼装、洋装の礼装の種類としきたりを学ぶ			

1 .	教科・科目名	保健		
2 .	教員名	永瀬 文		
3 .	時間数・単位	1年次 30時間 2年次 60時間 (2年間 90時間 3単位)		
4 .	科目の目標	①人体の構造と機能について具体的な知識を持ち、美容技術と保健との関連性について学ぶ。 ②美容師国家試験問題対応基礎力修得。		
5 .	使用教材	教科書 (社)日本理容美容教育センター		
		問題集 日本能率協会マネジメントセンター(美容師国家試験過去問題集)		
		その他 (社)日本理容美容教育センター (ワークブック)		
6 .	評価の方法	期末テスト評価 年2回 合計200点		
		平常学習評価 授業態度		
7 .	評価の観点	観点	趣旨	
		知識・理解	美容師に必要な解剖学、生理学等の基礎知識をつける。	
		国家試験対策	美容師国家試験の筆記試験対策として問題の解き方を理解している。	
		関心・意欲・態度	授業時間を有効に使っている。	
8 .	評価・評定の基準	達成度	評価	評定
		特に高い程度に達成している者	90～100点	5
		高い程度に達成している者	80～89点	4
		おおむね達成している者	60～79点	3
		達成が不十分な者	31～59点	2
		達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9 .	学習の方法	教科書と映像等を用いた講義形式で行う。教科書の内容についてまとめたプリントで確認を行う。		
10 . 指導内容				
科目名	単元	指導内容		
保 健	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	人体各部の名称、頭部・顔部・頸部の体表解剖学について学ぶ。		
	骨角器系	骨の種類と構造や骨の連結等を学び、骨格器系とそのはたらきについて学ぶ。		
	筋系	筋の種類と特徴及び表情筋と表情運動、主な骨格筋とそのはたらきについて学ぶ。		
	神経系	神経系の成り立ち、中枢神経と末梢神経のはたらきについて学ぶ。		
	感覚器系	視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、臭覚、皮膚感覚のそれぞれについて学ぶ。		
	血液・循環器系	血液循環の仕組みと循環経路及び、心臓、リンパ管器系のはたらきについて学ぶ。		
	呼吸器系	気道、肺の仕組みとガス交換、呼吸運動について学ぶ。		
	消化器系	消化管の仕組みとはたらき、消化と物質代謝について学ぶ。		
	皮膚の構造	皮膚の表面や断面、表皮・真皮・皮下組織について学ぶ。		
	皮膚付属器官の構造	毛、脂腺(皮脂腺)、汗腺、爪の構造及びはたらきについて学ぶ。		
	皮膚の循環器系	皮膚の血管、リンパ管の構造と働きについて学ぶ。		
	皮膚の神経系	皮膚の神経の構造及び働きについて学ぶ。		
	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	対外保護、体温調節、知覚作用と皮膚反射、分泌排泄、呼吸、吸収、貯蔵、免疫・解毒・排除、再生等の各機能について学ぶ。		
	皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚と全身・精神・栄養・し好品・体内病変等との関係、ホルモンとの関係、皮膚・毛・爪の手入れ等について学ぶ。		
	皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚疾患の原因と種類、各皮膚疾患の詳細について学ぶ。		